令和5年度 県立高等特別支援学校 学校評価項目

			教員結果			生徒結果			保護者結果										
重点目標	実践目標	関連する取組(参考)	アンケート(教師)	教員集計	カテゴリー別	アンケート(生徒)	生徒集計	カテゴリー別	アンケート(保護者)	保護者集計	カテゴリー別								
			あいさつの力を身につけさせることができている	せることができている 3.36 日頃からあいさつはできていますか	日頃からあいさつはできていますか	3.40		日常的にあいさつはできていますか	3.12										
			自分の思いや困ったことを伝える力をつけさせることができている	2.55	2.55	先生や家族、友だちに自分の思いや困ったことを伝えることができていますか	3.08	3.28	自分の思いや困ったことを伝えることはできていますか	2.68	2.93								
	①学校、寄宿舎、家庭(施		他人を思いやる心が育っている	2.78	2.07	他人を思いやる心を身につけることができていますか	3.19	3.20	他人を思いやる心を身につけることができている	2.84									
	設)での規律ある生活を通	・生徒会・委員会活動	人間関係形成能力の育成を図ることができている		友達と協力して行事等に取り組むことはできていますか	3.47		友達と協力して行事等に取り組むことはできていますか	3.06										
	じて、社会人として自立する ために必要な生活習慣を身	・授業(各教科)	自己管理能力の育成を図ることができている		金銭を自分で管理して使うことはできますか	3.15		金銭を自分で管理して使うことはできますか	2.49										
İ	につける。	・部活動 ・宿泊行事、遠足に向けての取組	何事にも意欲的に取り組む態度の育成を図ることができている	2.84		学校や普段の生活で自分のスケジュール(予定)をメモ帳等を使用して管理できていますか	2.75		自分のスケジュールを管理できていますか	2.51									
/ I \ FB\$*\ 4\ -\ 1\	②夢や目標をもち、自らの	・体育大会に向けての取組	マナーやルールを遵守する態度が身についている	2.92	2.73	マナーやルールを守ることはできていますか	3.57		マナーやルールを守ることはできていますか	2.97									
(リ)・職業科」設置校としての進	生き方を考え、具体の計画	・文化祭に向けての取組	自分で判断して主体的に取り組む力の育成を図ることができている	2.59	2.73	授業や行事に意欲的に取り組むことができていますか	3.36		授業や行事に意欲的に取り組むことができていますか	2.90									
路指導の充実と	を立て、それに向かって進ん	・珠算・電卓実務検定 ・校内実習	何事にも目標を持って取り組む態度の育成を図ることができている	2.80	1	学校や普段の生活で言われてからではなく自分から行動することができていますか	2.86	3.10	言われてからではなく、自分から行動することができていますか	2.52	2.67								
生きる力の育成	でいくキャリアプランニング 能力の育成を図る。	•特別実習	キャリアプランニング能力の育成を図ることができている	2.69		何事にも目標を持って取り組むことができていますか	3.02		何事にも目標を持って取り組むことができていますか	2.56									
		・企業でのあいさつ実習 ・現場実習				学校や家庭で自分の役割を果たすことができていますか	3.12		学校や家庭で自分の役割を果たすことができていますか	2.77									
	③関係機関及び企業等と の連携により、職業実習、現	• 進路相談会開催				ー 卒業後の生活に向けて自分の生き方を考えることができますか	2.91			2.28									
	場実習の充実と指導内容	・進路セミナー開催				卒業後の進路について、進路セミナーや担任の先生からの情報や相談は役に立ちましたか	3.18		進路についての情報や相談は役に立ちましたか	3.05									
	の改善充実を図る。		関係機関や企業等との連携を十分に図ることができている	3.27					- I was a second and a second a										
			職業実習、現場実習、校内実習の充実した取組ができている	3.40	3.30	0			***************************************	1 /									
			進路について、適切な指導、情報提供、相談等ができている	3.23															
	④個々の実態把握に基づき、生徒一人ひとりの教育	・就労支援研修会 「 作業学習で自立に必要な力を身	個々の生徒の実態に基づく、適切な支援、合理的配慮の提供ができている	3.04	3.04	授業や行事おいて、適切な支援により、「わかった」「できるよう になった」と感じたことがありましたか	3.42	3.42	授業や行事おいて、適切な支援により、「わかった」「できるよう になった」と感じたことがありましたか	2.93	2.93								
(a) = namb)	的ニーズに応じて、適切な 教育支援、合理的配慮の提	につけるために」 ・非違行為研修	 充実した校内研修を行うことができている	2.78						 	-								
(2)専門職として の教職員の資質	供を行う。	・カウンセリングマインド研修	専門性の向上を図ることができている	2.70	2.74	•	/			/	/								
向上	⑤教職員の専門性の向上、 指導力の向上をめざし校内 研修の充実を図ると共に校 外研修の受講を行う。	- 熱中症予防研修・対応 ・心肺蘇生法・AED研修会 ・自立活動研修 ・横の連携 (医療・福祉・就労) 研修 ・校外研修																	
	についての研修、交通安全 指導等を行い、生徒が自分	・合同火災避難訓練・寄宿舎避難訓練・携帯電話マナー指導	生徒は自分の判断で安全に配慮して行動ができるようになって いる	2.61	2.53	災害時に自分の判断で安全に避難することはできますか	3.20		災害時に自分の判断で安全に避難することはできますか	2.34									
		・SNS等による人権侵害についての 生徒指導 ・メンタルヘルス研修会	生徒は様々な危険に関する知識や理解を深めることができている	2.45		SNS等、インターネット上のマナーやルールについて理解が深まっていますか	3.33	3.31	SNS等、インターネット上のマナーやルールについて理解が深まっていますか	2.43	2.49								
(2) 在機管理社	の判断で安全に配慮できる 能力の育成を図る。	 勤務時間適正化の取組 ・熱中症予防研修・対応 ・心肺蘇生法・AED研修会 ・防災配備体制の確認(学校・寄宿 				熱中症にならないように自分で気をつけることができますか	3.39		熱中症にならないように自分で気をつけることができますか	2.69									
(3)危機管理体 制の構築	⑦事件、事故、熱中症、情報		・心肺蘇生法・AED研修会 ・防災配備体制の確認 (学校・寄宿	心肺蘇生法・AED研修会 防災配備体制の確認(学校・寄宿	心肺蘇生法・AED研修会 防災配備体制の確認(学校・寄宿	心肺蘇生法・AED研修会 防災配備体制の確認 (学校・寄宿	・心肺蘇生法・AED研修会 ・防災配備体制の確認 (学校・寄宿	・心肺蘇生法・AED研修会 ・防災配備体制の確認 (学校・寄宿	・心肺蘇生法・AED研修会 ・防災配備体制の確認(学校・寄宿	・心肺蘇生法・AED研修会 ・防災配備体制の確認(学校・寄宿	・心肺蘇生法・AED研修会 ・防災配備体制の確認 (学校・寄宿	·心肺蘇生法·AED研修会	心肺蘇生法・AED研修会 防災配備体制の確認(学校・寄宿	あらゆる危機に対して、教職員の危機管理意識の向上を図ることができている	2.63				
	に対する、教師の危機管理	f) ・学校保健計画・学校安全計画	学校として、あらゆる危機に対する備えができている	2.48			/	_/		/	/								
	意識の向上を図り、安心・	・防災安全計画	危機に直面したときに、組織的に迅速に的確に対応できている				/	/		/	/								
	安全な学校づくりを進める。	・学校いじめ防止基本方針の改訂・心の教育相談・組織的生徒指導体制						<u>/</u>											
		・入学式⇒新入生への説明会 ・体育大会・文化祭	学校情報を効果的に発信できている	2.96	2.96				学校情報を受け取ることはできていますか	2.88	2.88								
	⑧学校をよく理解してもらう	・卒業式 ・上野ケ原特別支援学校との対面式	家庭との連携は十分にとれている	3.19	3.12		/	/											
(4)開かれた学 校づくりの推進	ために学校情報発信力を高 める。	・学校見学(全11回) ・丹有地区学校説明会 ・三田市巡回指導	行事や様々な取組等において地域との連携を図ることができて いる	3.05					お子様のことで担任や学年との連携は十分にとれていますか	3.19	3.19								
	⑨学校と家庭、また学校と 地域の連携を図り、信頼さ れる学校をめざす。	- 中の中心日本学校農業祭参加 ・有馬高等学校農業祭参加 ・青空市場参加 ・部活動対外的活躍 ・一次護等体験 ・学校評議員会 ・進路通信 ・支援部通信 ・学校通信 ・寄宿舎だより																	

【ミッション】・一人一人のニーズを把握し、持てる力を伸ばし高める教育を行う。

- ・社会の変化や生徒の障害の状態に応じた適切な教育的支援を行う。
- ・一人一人の実態やニーズに応じた多様な進路選択に努める。
- 特別支援教育の専門性向上のため研修の充実を図り、地域における特別支援教育のセンター校としての機能・役割を果たす。・地域との交流、地域の学校との交流、国際交流などを通して本校教育活動の充実を図り本校のことをより知ってもらえるよう情報発信に努める。

A:3.2 ~ 4.0 《3.2以上 ピンク》 B:2.4 ~ 3.2未満 《3.0以上 黄》 C:1.6 ~ 2.4未満 《2.6未満 青》 D:1.6 未満

重点目標	宝珠日棰	宝践日標					呆護者	- 自己評価(達成状況)	学校関係者評価(学校評議員より)	改善の方法	
至灬口协	大成日1ボ	自己評価 結果	評価 ABC 自己評価 ABC 果 評価 結果 評価		i ABC 評価		価 ABC 評価		子仅展示自計画(子仅計成長&ワ)	以音》が以及	
	① 学校、寄宿舎、家庭(施設)での規律ある生活を通じて、社会人として自立するために必要な生活習慣を身につける。	2.9	В	3.3	A	2.9	В	・生徒は日常の挨拶やマナー・ルールを守る態度は向上し、生徒たちも規律ある生活をきちんと理解して取組んでいる。 ・自分の思いを伝える力、自己管理能力の育成について昨年度より向上し、トラブル発生時には、他者と	【生徒の生活習慣の向上】 ○教員・保護者と生徒の評価の差が大きい(生徒の評価がより高い)項目として「マナーやルールを守ることができていますか」「金銭を自分で管理して使うことができますか」の2項目が挙げられる。この差は経年変化を見てもあまり変わっていない。挨拶などのように種類が限定的で場面が具体的に挙げられるものと異なり、これらの課題については、教員・保護者の思う範囲や種類と生徒とでは差があるのではないか。例えば、守るべきマナーやルールを明示することで生徒自身の評価がより具体的になり、差が縮小するのではないか。 ○「職員」は母集団の変化(異動)が相対的に少なく、また評価の経験値が高いので、基準値として考えられるものとし、その比(欄外で計算)を「職員評価(Teachers' Assessment、以後TA)」として、以降の考察に用いてみる。「生徒」の自己評価(3.3、A)は、TAは+14.3%であり、生徒が考えるほど高い段階には達していない。「保護者」のTA+1.7%は「職員」評価と大きく変わらず、引き続き「生徒」の自覚を促す指導が必要と考えられる。 ○規則正しい生活、集団生活でのマナーを習得する。卒業後の学生の時とは違う誘惑などについても事前に知識として教えておくことも大事なのではないでしょうか。ルールを守るという評価で保護者、教員と生徒の評価が大きくかけ離れている点が気になります。 ○挨拶などの日常の生活習慣や他人と協調する力は高いですが、自分のことを他人に相談したり、自分の意見を主張したりすることに弱さがありそうです。また、自分の人生を前向きに捉え、計画的に物事を進める力は向上してきていると思われます。	【生徒の生活習慣の向上】 ・今後も全教員で生徒の小さな変化に気づく機会を作り、いつでも生徒から気軽に相談しやすい環境作りに引き続き取組む。また、常時担任以外の教員も生徒情報を共有し、様々な学校や卒業	
実と生きる	② 夢や目標をもち、目らの生き方 を考え、具体の計画を立て、それに	2.7	В	3.1	В	2.7	В	・生徒は何事にも意欲的に取り組も うとし、目標をたて、主体的に取り 組んでいる状況が見られる。 ・例年、生徒や保護者は進路や将 来について不安を感じているが、進 路指導部や学年からの丁寧な情報 発信や生徒の状況に合わせた適切 な相談を充分に活用できていた。	今後、他人に配慮することと同時に、自分の気持ちを伝える力も高められるように、コミュニケーションのロールプレイや自分の意見を発表する機会などがあれば良いように思います。 〇生徒自身の評価が少し高い、職員様と家族様の評価が同一なので、生徒様の意欲を落とさず成長いただく。 〇寄宿舎で集団生活のルールを教え、自分のことは自分で出来るように生活習慣を身につけれたことは、指導いただいた先生方に感謝しかありません。 【生徒のキャリアプランニング】 〇生徒は、「何事にも意欲的に取り組むことができていますか」については高く、「自ら主体的に行動する力が身についていますか」は低く評価している。「意欲的」を課題を与えられて活動に取り組む、「主体的」を「自ら」課題を探して活動に取り組むと考えると自分の夢や目標に向けてより主体的に取り組めるような課題を用意することが必要かもしれない。また、「将来に向けて自分の生き方を考えることができますか」の教員の評価が、生徒・保護者よりも高いことと併せて検討する必要があるのではないか。 〇上記①と同様、「生徒」の自覚を促す指導が必要。「保護者」のTA-2.2%は職員よりも高い期待を表している。 〇社会に出て何がやりたいのかと具体的な事を描いている生徒さんは少ないと思いますので日々の進路指導の中で具体的に出来る事は行い、必要な知識習得を行う。 〇他人と比較することなく、自分自身を見失わず生きていけるように力をつけていってほしいです。 【保護者や地域との連携】 〇「進路についての情報や相談は役に立ちましたか」ついては、生徒・保護者・教員共に高い(特にR5年度評価で高くなっている)。	・担任からだけでなく、進路指導部をはじめとする専門部担当者や企業等の外部講師、本校卒業生を招聘し、就労や卒業後の生活について具体的な見通しが持てる講話を聞く機会を作る。 【保護者や地域との連携】	
	③ 関係機関及び企業等との連携 により、職業実習、現場実習の充実 と指導内容の改善充実を図る。	3.3	A					進路指導部を中心に各関係機関や 企業等との連携を積極的に行った。 現時点での就労状況も良く、各生 徒の特性を理解した就労先を探す ように引き続き努める。	ので、職員会議や「I on I」等で理由を再確認しても良いかも知れない。 ○企業見学、実習の中で、色々な年代の方、働き方を体験する事が一番ではないでしょうか。 ○企業の方と学校側の連携により、色々な場所で実習を行える事を今後も期待します。 ○関係機関や企業との連携は十分にしていただいていると思います。 ○何事にも一生懸命に取り組もうとし、目標を立て、主体的に取り組んでいると生徒自身が感じられているのが素晴らしいと思います。改善方法として、進路指導部をはじめとする専門部担当者や企業の外部講師、卒業生を招待し、就労や卒業後のことについて話を聞く機会を作っておられるそうですが、生徒達が具体的に将来について考えることにつながるので大変良いと思います。	・今後も卒業後の就労や生活に 関する情報を紙面やICT機器等 で発信し、保護者や生徒からの相 談に丁寧に応え、常に保護者・地 域・学校が連携できる体制にして おく。	

【ミッション】・一人一人のニーズを把握し、持てる力を伸ばし高める教育を行う。

- ・社会の変化や生徒の障害の状態に応じた適切な教育的支援を行う。
- ・一人一人の実態やニーズに応じた多様な進路選択に努める。
- ・特別支援教育の専門性向上のため研修の充実を図り、地域における特別支援教育のセンター校としての 機能・役割を果たす。 ・地域との交流、地域の学校との交流、国際交流などを通して本校教育活動の充実を図り本校のことを より知ってもらえるよう情報発信に努める。

A:3.2 ~ 4.0 《3.2以上 ピンク》 B:2.4 ~ 3.2未満 《3.0以上 黄》 C:1.6 ~ 2.4未満 《2.6未満 青》 D:1.6 未満

重点目標	ch 04 C 145	聵	崀		生徒		保	護者	ムコシエケ / ナユリハロ/	举 to 10. 10. 10. 10. 10. 10. 10. 10. 10. 10.	7L ¥ 0. + \
里点日標	実践目標	自己評価結果	ABC 評価	自己評	平価 /	ABC 評価	自己評価結果	ABC 評価	- 自己評価(達成状況)	学校関係者評価(学校評議員より)	改善の方法
(2)専門職としての資料を受ける。 (2) 中門教質 (2) 中間教質 (2) 中間教育 (2) 中間 (2) 中	④ 個々の実態把握に基づき生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な教育支援、合理的配慮の提供を行う。	3.0	В	3.4	4	Α	2.9	В	・各感染症流行は続いているが、生徒の感染状況確認や消毒や換気徹底により、従来通りの学校行事を展開することができた。教務部や支援部を中心に個別の指導計画新書式移行に伴う内容の見直しや生徒情報の共有を積極的に行った。そのことにより、教師が生徒たちを理解した対応ができるようになったことがこの評価の表れである。	一方「保護者」の評価(2.9、B)は、令和4年度(3.1、B)から下がっており、何らかの要因があるものと推察できる。この理由を掘り下げておくと、以降の職員研修の題材の参考になるかも知れない。 ○授業や実習を見学させて頂く中ではよく目配りがなされていると思います。 ○一人ひとりの状況に合わせた教育・支援ができていると思われます。 ○新学習指導要領改訂に伴い、先生方も大変だったかもしれませんが、生徒の授業に対する信頼度が増していることが読み取れますので、効果も出てきているのだと思います。 ○生徒様の個々の能力を見極めて伸ばすのは難しいので、その生徒らしく伸びてもらえば良いと思います。 在学中は娘の出来ること、出来ない事に対して先生が対策をアドバイスしてくれたり、実践してくれたりとたくさんの支援がありとても助かりました。	・個別の指導計画様式変更に伴い、自立活動の重点課題を明確 にし、一人ひとりの実態と課題に
	⑤ 教職員の専門性の向上、指導力の向上をめざし校内研修の充実を図る。	2.7	В						・新学習指導要領改訂に伴う3観点に基づく授業や評価改善のための研修会を実施した。本年度も生徒一人一台のiPadの活用に全教	○「職員」の自己評価(2.7、B)は、令和4年度の(2.5、B)よりも改善しており、好ましい変化。生徒のみならず教職員にも引き続き、意図的に「学び」の機会を増やしていくと良いと考える。例えば、成長著しい「生成AI (ChatGPT)」の使い方を、まずは教職員が学び、生徒達に展開するなども有りか。 ○iPadを使用しての授業もされていますので、就職先の企業さんが必要としている事を知る機会があってもいいのかと思います。 ○引き続き、生徒一人ひとりの状況に応じた教育となるように研修等に取り組んでいただきたいと思います。 ○学校全体として必要だと思うので、これからも力を入れていただきたい。	【教師の専門性の向上】 ・共有した生徒情報に基づき各教科の3年間を見通したシラバスの作成を通して、卒業までにつけたい力を段階的に設定する。また、引き続きiPad等ICT機器の授業での活用方法を考察し最新の情報器に関する研修計画を考察する。 ・特別支援教育の視点から段階的な授業計画を立案、生徒一人ひとりの目標を明確にして卒業の生活に活かせることを増やす。
(3)危機管 理体制の構 築	⑥ 火災避難訓練、地震避難訓練、不審者侵入時の対応についての研修、交通安全指導等を行い、生徒が自分の判断で安全に配慮できる能力の育成を図る。	2.5	В	3.3	3	Α	2.5	В	に成と回避する方法を主使の状況 に応じた具体的な学びを実践する ことで理解を深めることができた。 ただ、緊急時の判断力やSNSでの ルールやマナー面について保護者 の不安はあり、生徒・保護者の評価 は依然として差がある。	「保護者」の「A-1.6%は、「生徒」の判断に対して更に厳しい認識を持っていると言える。社会人になり、詐欺の被害者になったゲース、脅迫の加害者&被害者になったケースもあり、具体的なリスクを、根気強く教えていく必要があると考える。 ○避難、火災訓練等をより実践的に又、定期的に実施し各生徒さんが自分自身で判断、行動できるようにする。 家庭でも緊急時の避難場所や持ち物などの話をしますが、学校での訓練はとても役立つと思います。 ○安全に対する認識は、生徒と教員・保護者の間にかなりの差が見られます。生徒には危機に対するイメージが具体的でない可能性があります。 ○地震が起きたときに必要な危機管理意識について学びを深めるべきだと思います。 【学校の危機管理体制】	【生徒の危機管理意識】 ・引き続き、命を守る大切さを機会あるごとに伝え、いざという時に一人で判断して行動できる意識をあるよう、より2
	⑦ 事件、事故、熱中症、情報漏洩	2.6	В						・感染予防のための指導を継続して実施、コロナ対応には寄宿舎を含めて全 教職員で徹底した衛生管理をするなど 危機管理意識の向上を図り、コロナ罹 患者が出ても迅速かつ適切な対応を行い、教育活動を止めることなく遂行する	示し、生徒自身がどのように判断する(行動する)か、を考えさせるなど、生徒自身が答えを探す活動が重要ではないか(保護者には生徒の理解について情報提供することで両者の評価の差が縮まるかも)。 ○「職員」の自己評価(2.6、B)は、細かく見ると2.56→2.63と改善傾向にある。学校として様々なリスクを、事あるごとに「想定」している現れと考えられ、現在の取り組みを継続・発展させる事が望ましい。 ○些細な変化に気づく又、報連相を行う事だと思います。 今後、あらゆる危機に対して、具体的に認識できるように、映像やゲストスピーカーを利用する等、具体的にイメージしやすい工夫が必要がよれませ	な訓練を繰り返し実施する。 ・男女関係に関する学習を計画的に生徒に実施するとともに、信護者にも学ぶ機会を作る。 【学校の危機管理体制】 ・隣接する上野ケ原特別支援学校との合同避難訓練を実施し、機管理体制整備を行う。

【ミッション】・一人一人のニーズを把握し、持てる力を伸ばし高める教育を行う。

- ・社会の変化や生徒の障害の状態に応じた適切な教育的支援を行う。
- ・一人一人の実態やニーズに応じた多様な進路選択に努める。
- 特別支援教育の専門性向上のため研修の充実を図り、地域における特別支援教育のセンター校としての機能・役割を果たす。・地域との交流、地域の学校との交流、国際交流などを通して本校教育活動の充実を図り本校のことをより知ってもらえるよう情報発信に努める。

A:3.2 ~ 4.0 《3.2以上 ピンク》 B:2.4 ~ 3.2未満 《3.0以上 黄》 C:1.6 ~ 2.4未満 《2.6未満 青》 D:1.6 未満

重点目標	実践目標	鵈	塤	4	生徒		保護者	f	自己評価 (達成状況)	学林朋友 乡 孙伍/学林孙祥号上U)	改善の方法
里瓜口际	天 战口惊	自己評価結果	ABC 評価	自己評価結果	西 AB 評信	C 自	己評価 A 結果 i	ABC 評価	日口許伽 (建成仏况)	学校関係者評価(学校評議員より) 	以音の方法
(4)開かれ た学校づく りの推進	⑧ 学校をよく理解してもらうために 学校情報発信力を高める。	3.0	В			2	.9	В	更や連絡をリアルタイムで掲載、ブログはほぼ毎日学校情報を更新、情報発信に力を入れたことでアクセス回数が飛躍的に増加している。また、定期的に総務部、進路指導部、保健安全部、支援部からの通信や便りを時期に応じて効果的に発行できた。 ・作成した広報用ポスターを学校見学や販売活動時に掲示した。	情報発信】 「ホームページで行事等の情報をリアルタイム配信するなど、保護者との情報共有並びに地域や他の人々への情報発信を行ってい。日々の授業等、忙しい中でも今後とも是非、続けていただきたいと思う活動である。 「安全に関しては、危機的な状況におかれてどのように行動できるかが問われているが、危機的な場面をどの程度「具体的に想像できているか」の差が現れているようにも思う。課題の提示の仕方に工夫が必要かもしれない。 「「職員」の自己評価(3.0、B)に対し、「保護者」の評価(2.9、B)はTA-4.6%と、期待値の方が高い。学校のホームページは適宜報更新されており、第三者から見て妥当/十分と考えられる。ただ貴校はリンク先にPDFファイルを多用しており、スマホで見ると、アイルをダウンロードする必要があることと、他校(西神戸)と比べて画像よりも文字情報が多いようには思われ、「保護者」評価があなのは、そういう感覚的な部分かも知れない。 「ホームページやブログは興味のある人、又は関係者しかアクセスしないのではないでしょうか。何か、普通に目に留まるような発信が法も必要。年代により情報収集の媒体も違っていると思います。 「ホームページやブログにおいて積極的に情報発信されていると思います。 「入学を希望されている家族、生徒は多いと聞きます、これからもオープンキャンパスを開き理解いただきより分かりやすい学校方針伝えられたら良いと思います。 「本業後もホームページやブログで情報を見て、子供と色々話すことがあるのでこれからも発信を楽しみにしてます。	・学校評議員だけでなく、地域の 企業の方をお呼びしての授業見 学や授業検討会を実施し、本校と 生徒たちの学習活動を知ってい ただく機会を作る。 ・学校案内の内容を見直し充実さ
	⑨ 学校と家庭、また学校と地域の連携を図り、信頼される学校をめざす。	3.1	В			3	.2	A	・担任や生徒指導部・進路指導部・ 支援部・寄宿舎等々学校全体で密 に連絡を取りながら、各家庭と良好 な関係づくりができている。また地 域の企業また福祉や医療との連携 においても組織的に対応するのは	 ○ブログもいいのですが、今はインスタを使う方が情報の発信力があるように思います。例えば、愛知県の春日井高等特別支援学校がインスタをされているので参考にしてみて下さい。 【保護者・地域との連携】 ○「お子様のことで担任や学年との連携は十分にとれていますか」についての保護者の評価は令和元年より一貫して上昇している。にも関わらず、教員自身の評価は厳しく、さらなる工夫やより良い連携を模索している様子がうかがえる。 ○「職員」の自己評価(3.1、B)に対し、「保護者」の評価(3.2、B)はTA2.2%と高く、学校側の努力・活動が伝わっているものと考えられる。 ○WEBの活用。記載にもありましたが地域の行事等への参加。 ○今後は、地域とのつながりも増えていけば尚よくなると思います。家庭(保護者)との連携も現在もすでにしっかりされているとは思いますが、それぞれの家庭(保護者)によって、希望される情報の種類や量が異なると思います。 基本的には皆に同じような対応をすることが求められますが、状況によっては個別に対応されることが必要だと思います。 ○担任の先生や奇宿舎の先生とも、何かあればすぐ連絡をとれていたので在学中は安心していました。 	【保護者・地域との連携】 ・学校間交流だけでなく、地域のイベントや交流活動に積極的に参加する。 ・保護者との直接対話する機会を学校行事だけでなく、普段の連絡帳や電話でのやり取りを通して、本校の取組みを共有する。